

最新テクノロジーと地球科学の融合による 地盤環境技術を提供し、社会発展に貢献

「地層観察カメラ」や「ボーリングコア周辺画像記録システム」等、調査用機器を独自開発する技術力と、それら機器を駆使した地質関連ソリューションを提供する企業。「SDGs」をいち早く企業経営に取込み、国際協力機構（JICA）の事業に参画し、途上国における水不足問題解決のための調査研究や現地の人材育成を含めた技術移転等を通じて積極的に国際貢献活動を進めている。

●所在地	北海道札幌市東区北24条東17丁目1番12号
●電話／FAX	011-780-2222／011-780-2221
●URL	http://www.raax.co.jp/
●代表者	代表取締役社長 成田 昌幸

●設立	1988年
●資本金	5,000万円
●従業員数	36名



国際協力機構（JICA）支援事業を活用し海外市場への挑戦

国際協力機構の中小企業海外展開支援事業（案件化調査及び普及・実証事業）に採択され、南米ボリビアで自社開発の井戸診断用カメラを使用した井戸の長寿命化にかかる事業を実施。同社の製品・技術が深刻な水不足で悩むボリビアにある約3,500本の既存井戸の再活性化に貢献できることを実証し、かつ、ビジネスチャンスになることを確認。現在、現地業者と販売代理店契約を締結し、本格的なビジネス展開をしつつある。



ボリビアでの取組

体験型科学学習イベントや地域プロジェクトへ参加し地域貢献

道内で開催される「体験型科学学習イベント」では、地元理系大学と共同研究で開発したVR技術を用いたボーリング孔内部での地層調査を疑似体験できる。そのイベントを通じて、地域の子供たちが科学を楽しく学ぶ環境を提供し、地域の人材育成に貢献。また、2030年の開通を目指す北海道新幹線札幌延伸工事、国内でも有数の集客力を誇る札幌市円山動物園の増築工事等、地域への波及効果が大きい数多くのプロジェクトで地層調査を担い、地域活性化に貢献している。



体験型科学学習イベント

顧客に応じた調査方法と先端技術による高精度調査の実現

顧客ニーズや現場状況に応じた調査機器や調査手法を自社開発できる技術力と、国内外で1,500件以上を手掛けた豊富な調査実績から得た知見を活かし、5年スパンで新製品を開発している。常に高精度調査に向けた取組を進めており、他社では調査が不可能な小口径のボーリング地点や高温高深度等の過酷条件下での高精度な調査が可能。近年では調査結果に基づく地層分析にIoTやVR等の先端技術を導入することで、さらなる高速高精度の調査分析を実現し、付加価値を向上させている。



BIP-6高精度展開画像